ドリル

15 日 3 年生の体育の授業は陸上の導入でした。
「次のステップドリルは、・・・。」
陸上に必要な動きをとりいれたアップをしているとのことでした。5 種類のステップドリルで筋温を上げていました。スペルは drill。訓練、反復、演習などを意味するようです。“ドリル”といえば小学校の頃に使用した計算ドリルや漢字のドリルを連想します。小学校 5 年生の時、担任が「終わった人は計算ドリルをやって!!ドリルで掘り下げるのよ」と声を発しました。工具のドリルもスペルは drill。反復という意味より、担任の掘り下げるという意味付けに「へー」とドリルで心に風穴を開けられた気分でした。中学校ではドリルを使うのでしょうか?

早速、確認のために1年生の教室に入ると、ドリルは使用せずに分数の復習を行っていました。担当教員から「分数はとても便利なんです。その理由は?」生徒たちが考えます。正解は「割り切れない数を正確に表す」とのこと。小学校では割り算において、割り切れなければ余りを出します。中学校からは、余りを出して答えとすることはありません。余りを書かないからといって、1÷9=0.1111111111111111111・・・とも書きません。さらにこの式は左辺と右辺が限りなく=に近いものの、等しくはないのです。(1÷9≠0.111111111・・・と≠で表記します。)やはり、

$1 \div 9 = \frac{1}{9}$ と表すことが最も正確です。
等しいか違うか、ニアリーイコールという(ほぼ等しい≒で表す)考えかたもあり、思考を巡らせながら歩いていると、英語の教室から偶然にも等しいに似た言葉「same」の声が!“同じ”という意味。単語の発音練習です。何度も繰り返すドリル練習でした。担当教員からは、「same の対義語の different と合わせて覚えよう」と掘り下げていました。

17 日 1 時間目、1 年 A 組は道徳です。靴という題材です。

> 靴箱に置いてあったはずの靴がない。誰かに隠されたのか。探しても見つからない。担任に相談すると遅くなったのでとりあえず上履きで帰るよう指示される。指示通りお家に帰ったところをお父さんに見つかる。父にどうしたと問われても、本人は「履き替えるのを忘れてしまった」と真相を語ることができなかった。

そこで発問。「真相をあなたなら、保護者に伝えますか?伝えませんか?」 大きく分かれました。

伝える側	伝えない側
さがすのに協力者ができる 早期に発見できる 他にも被害があるかも　等	大袈裟になる 続くようなら考える 心配をかけたくない　等

小グループにわかれ意見交換がなされ、このような意見が出ました。
あるグループの生徒からは、「まず、上履きで帰らせることが問題だよ」と角度の違う意見が出ていました。意見交換の大切なところ。意見の交換は自分とは立場の異なる意見に巡り会えるのです。

清瀬中では、自分の意見を発表する力や、議論する力を育成するという目標を掲げています。道徳をはじめ、総合的な学習の時間、行事運営などで、意見交換や議論を重ね、力をつけて参ります。

意見を出し合えば、自分の想いとは異なる方向に進み、割り切れない 場面が出てくることでしょう。そこで互いに歩みより different から same へ合意形成をはかる力をつけていきます。

議論することは、仲間の考えが、自分の考えが、 掘り下げられていきます。